



ここ 県大での学びに境界はない。

真に役立つ学びとは何だろう。

この境界なき学び舎で、
自らの手で、自らの足で、
学んでいく。

県大での体験のすべてが、
未来を切り拓く力になる。
真に役立つ学びとは、
そういうものだ。

さあ、探究心が導く
無限のフィールドへ。

わたしの学びに限界はない。

Contents

P.04 沿革／理事長・学長メッセージ
P.06 Academic Fields
P.08 Various Fields
P.10 My Infinite Field
(学生・卒業生インタビュー)
P.12 学部・学科INDEX

環境科学部

P.14 環境生態学科
P.18 環境政策・計画学科
令和8年度から"環境社会システム学科"
に改称予定です
P.22 環境建築デザイン学科
P.26 生物資源管理学科

工学部

P.30 材料化学科
P.34 機械システム工学科
P.38 電子システム工学科

人間文化学部

P.42 地域文化学科
P.46 生活デザイン学科
P.50 生活栄養学科
P.54 人間関係学科
P.58 国際コミュニケーション学科

人間看護学部

P.62 人間看護学科

P.66 地域教育プログラム(地域と学ぶ)
P.68 大学院
P.69 キャンパスライフ
P.70 キャンパスマップ
P.72 施設紹介
P.74 数字で見る県大

P.76 県大生の"リアル"
P.78 クラブ&サークル
P.80 近江楽座
P.82 国際交流・留学情報
P.84 キャリア教育・キャリアサポート
P.86 学費・学生サポート／入試情報



キャンパスは琵琶湖。 テキストは人間。

History 沿革

- 昭和25年(1950年) 4月 滋賀県立短期大学開学(工業科、学芸科)
- 昭和31年(1956年) 4月 滋賀県立農業短期大学開学(農業科)
- 昭和33年(1958年) 3月 滋賀県立短期大学組織改編(工業部、農業部、家政部)
- 昭和46年(1971年) 4月 滋賀県立農業短期大学廃止
- 平成 4年(1992年) 9月 看護部設置
- 平成 7年(1995年) 4月 滋賀県立大学基本構想策定
- 平成 8年(1996年) 3月 滋賀県立短期大学工業・農業・家政部各科の閉科
- 平成 8年(1996年) 4月 滋賀県立大学看護短期大学部(併設短期大学)開学
- 平成11年(1999年) 4月 大学院修士課程開設(環境科学研究科、工学研究科、人間文化科学研究科)
- 平成13年(2001年) 4月 大学院博士課程開設(環境科学研究科、工学研究科、人間文化科学研究科)
- 平成15年(2003年) 4月 人間看護学部開設
- 平成17年(2005年) 3月 滋賀県立大学看護短期大学部(併設短期大学)閉学
- 平成18年(2006年) 4月 公立大学法人滋賀県立大学設立

- 平成19年(2007年) 4月 大学院人間看護学研究科修士課程開設
- 平成20年(2008年) 4月 工学部に電子システム工学科を設置
- 平成21年(2009年) 4月 環境科学部、人間文化学部の学科を再編
- 平成24年(2012年) 4月 大学院工学研究科博士後期課程を再編
- 令和7年(2025年) 先端工学専攻開設
- 人間文化学部に国際コミュニケーション学科を設置
- 大学院工学研究科に電子システム工学専攻(博士前期課程)を設置
- 人間看護学研究科博士後期課程を設置

本学は令和7年(2025年)6月に開学30周年を迎えました。開学30周年を記念し、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。滋賀県立大学は30周年。」というメインフレーズおよび「歩みは共に。今までも、これからも。」というロゴフレーズのもと、さまざまな記念事業を実施してまいります。



Message 理事長・学長メッセージ

持続可能な社会づくりに求められる 「専門性」と「思いやりの心」を育む

滋賀県立大学は、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」大学を目指してきました。そして、多くの卒業生を社会へ送り出してきました。琵琶湖を擁する滋賀の豊かな自然や、歴史・文化に育まれた環境は、持続可能な社会づくりを学ぶ絶好の場です。本学では、地域に飛び出して学ぶ機会が豊富にあり、実践的な学びを通じて、“地”に足のついた「専門性」と、社会づくりの原点となる「思いやりの心」を育むことができます。本学での学びを生かし、持続可能な社会の担い手として成長してください。



滋賀県立大学 理事長・学長
井手 慎司

四季折々の姿を見せる、自然豊かなキャンパス。
学びのフィールドは、教室を飛び越えて
どこまでも続いている。



Academic Fields

01 教養を深める

人間学

人間と社会を深く見つめ、現実的な問題を通して「人間」という存在を考える中で、主体的に学ぶ力を育てます。
必修科目の人間探求学と、「生きる」「考える」「つくる」の3つの科目群からなる多彩な選択必修科目から構成されています。

● 人間探求学[必修科目]

大学で学ぶということは、自ら課題を見つけ、そこから新たな考えやモノを創造することです。そのためには、自らの考えをわかりやすく伝え、他者の考えをじっくり理解し、共感し、批判し合う能力が必要となります。これらの能力を1回生前期のうちから身につけていきます。



序盤の授業で、大学生活でやってみたいことを学生達でディスカッションしたことが印象に残っています。入学してすぐは大学生活に慣れることに精一杯だったのですが、大学4年間で長い目で見るきっかけとなり、学生生活の設計に役立ちました。

環境科学部 環境政策・計画学科
4回生 後藤 芽依さん

● 3つの科目群[選択必修科目]

① 生きる

科目群「生きる」では、私たちが動物の一種であるヒトとして、また、複雑な社会の中で暮らしていく人間として、健康で幸福に生きていくための知恵を学びます。

講義例

- 自然のしくみB
～森林と環境と私たち～
- 食と健康
～食を通じた健康との関わり～
- 生命・人間・倫理
～人間の尊厳と権利～

② 考える

科目群「考える」では、空間（環境、地域性など）、時間（歴史、成長など）、構造（自然、人工物など）のような、ものごとを考えるための多様な視点を学びます。

講義例

- 都市・建築を考える
～川の未来学～
- 人間関係の科学B
～コミュニケーションを考える～
- 異文化理解A
～英語圏の異文化理解～

③ つくる

科目群「つくる」では、人間と他の生き物の大きな違いである生産活動と創造活動に着目し、衣食住や道具類など、さまざまな「モノ」と人間の関係を学びます。

講義例

- 農業と環境B
～微生物と生活～
- 電子社会と人間
～高度情報化社会の成り立ちと私たちの生活～
- 比較住居論
～住まいがたえる世界のくらし～

Student's Voice

私はレポートの書き方を学びました。入学して一番最初に書いたレポートだったので、そこで学んだ書式はその後レポート作成に大きく役立ちました。また、班のメンバーの書き方も参考になり、良い点を吸収できたことが印象的です。

人間文化学部 地域文化学科
4回生 山田 春香さん

教授と6人の学生とディベート対決をしました。ここでは、どうしたら相手の見解を崩すことができるのか、どうしたら反対している方に理解してもらえるのかとさまざまな人の立場になって物事を考えたことが印象的です。

人間看護学部 人間看護学科
4回生 安部 智華さん

02 地域と学ぶ

地域教育プログラム

目まぐるしく変わり続ける時代を生き抜き、地域社会に貢献していくための能力を養うために、主専攻・副専攻・全学共通科目にまたがって構成される、本学独自のプログラムです。

— P.66



地域共生論

近江楽土副専攻

近江環人地域再生学座

好奇心の赴くまま、自ら考え、学び、行動する。
多様な学問を通して、県大が目指すのは「人が育つ大学」。

03 経験を広げる



環境科学部 環境フィールドワーク

実際に地域環境問題が起きているフィールドに足を運び、調査・解析とプレゼンテーションに必要な能力を身につけます。



人間文化学部 環琵琶湖文化論実習

1回生を対象とした、滋賀の歴史や文化、生活を学ぶ実習で、テーマ別に班を編成し、調査から報告書の作成手法までを学びます。



工学部 実験・実習

技術者としての基本的技能を体験的に学びます。例えば、身近な工業製品の分解と再組立てを通じて、ものづくりの基本を学びます。



人間看護学部 臨地実習

医療・保健・福祉の現場での実習を通して看護援助の基礎的な実践能力を身につけ、人との出会いやふれあいを通して豊かな人間性を育みます。

県大×SDGs

世界および地域の持続的な発展に貢献することを目指し、2018年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行い、本学のSDGsにかかる取組姿勢を対外的に発信しました。

滋賀
県立大学
SDGs宣言

- S 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G グローカルな思考と実践をもって
- S 世界と地域の発展に貢献します



キャンパス SDGs プロジェクト

年間を通じて、学生、教職員が協働して映画鑑賞会、トークイベント・県大TAKIBI TALK、現場研修会などを企画・開催しました。

SDGs 出前講座

県内外の行政機関や教育機関、企業などから要望を受けて、教職員や学生を講師として派遣し、講演やワークショップを実施しました。

Various Fields

分野を飛び越え、地域を飛び越え、交錯する学び。

多様なフィールドが広がるこの学び舎で、どんな世界が私を待っているのだろう。

滋賀から世界へ



国際交流・留学情報

P.82

キャンパスはどこまでも
実習調査船「はつさかり」



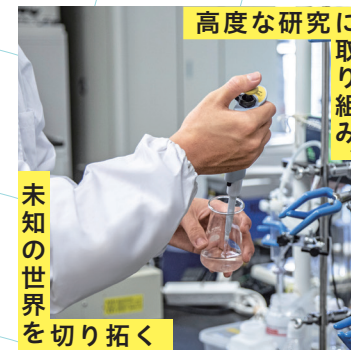
百聞は一験に如かず



環境科学部

P.14

私だけの学びを究める



大学院

P.68



滋賀を知り、人を知る



人間文化学部

P.42

すべて自分たちの手で



イベント紹介

P.77

県大×SDGs



県大×SDGs

P.7

将来像は十人十色



キャリア教育・キャリアサポート

P.84

ここでなら、何者にもなれる



近江楽座

P.80

「生きる」を考える



人間探求学

P.6

全力で“好き”に打ち込む



クラブ&サークル

P.78

ものづくりの真髄を学ぶ



工学部

P.30



ここが社会への入り口



地域教育プログラム

P.66

実習を超えた実践



人間看護学部

P.62



学びはキャンパスを越えて



キャンパスマップ

P.70

地域 Region



CHECK MORE



近江楽座

P.80

近江楽座で経験した
お茶の生産・販売が、
現在の自分の原点に

先輩に誘われて参加した「近江楽座」では東近江市政所町^{まんどころ}で「政所茶」づくりに取り組みました。畑に通い、草むしりや茶摘みを通して地域の方々と交流しながらお茶の生産に携わり、商品として販売を開始。マルシェや道の駅で商品の背景や想いを伝える中で、コミュニケーション力が向上しました。その力は、現在コーヒーショップを営む私にとって、お客様との会話で大きく役立っています。お店では時折、政所茶も提供して日本茶を身近に感じてもらえる工夫をしています。近江楽座での経験は、今でも私の原点です。

大原 悠人さん 此処珈琲焙煎所
人間文化学部 地域文化学科 2021年度卒業

世界 Global



CHECK MORE



国際交流・留学情報 P.82

my
Infinite

「自ら求め、成長する学び」を軸に、
自分だけのフィールドを見つけよう。
キャンパスから地域、世界、
未来へと無限に広がるフィールド。

CHECK MORE — キャリア教育・キャリアサポート P.84



アメリカへの交換留学では、多様な背景を持つ人々との交流を通じて価値観や視野が広がり、「世界に影響を与えられる仕事がしたい」という思いが強まりました。就職活動ではその思いを軸に、疑問や不安を大学のキャリアデザイン室に相談しながら企業を選定。大学主催の合同企業説明会で、内定先企業の卒業生の方から人々の命に関わる製品を扱うやりがいについてお話しいただいたことが心に響き、入社を決意しました。今後は、相手のニーズに寄り添いながら成長を重ね、将来的には海外で現地の課題に応じた製品やサービスを提供したいと考えています。

樋口 陽祐さん 株式会社島津製作所
人間文化学部 国際コミュニケーション学科 2024年度卒業

未来
Future



多様な価値観を理解する力を生かし、
世界を舞台に活躍したい

英語力を武器に
世界を広げ、
日本文化の架け橋に

高校時代から海外での学びに興味があり、大学での留学を目指していました。授業やサークルで留学生と交流する中でさらに異文化に興味を持つようになり、大学の交換留学制度を利用してアメリカのコロンビアカレッジへ留学。留学前には、大学のIELTS試験対策授業やNice Conversations Programに参加し、語学力を磨きました。現地では、自分の意見を持つことの大切さと、それを表現する力の必要性を学び、異なる価値観が交わる環境でも主体的に行動できるようになりました。今後は、学内の留学生に日本文化の魅力を伝えていくことが目標です。

久保 響さん
人間文化学部 国際コミュニケーション学科 4年生